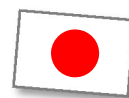




ベトナム・ナムディン看護大学と



青森県立保健大学との学術・教育交流

本学は、ベトナム国ナムディン看護大学およびベトナム国立栄養研究所との相互交流を通じて学術と教育の向上を図ることを目的に、2018年9月24日にナムディンにおいて交流協定を締結しました(2024年3月11日更新)。2020年以降は新型コロナウイルス COVID-19 パンデミック影響を受け、学生の短期研修の見合わせが続いていましたが、2023年度から再開することができました。本年度は、本学からの引率教員として栄養学科の鹿内彩子教授と三好美紀准教授に加えて、今後の学科横断的な学術交流の可能性を検討するために角濱春美教授(副学長)、川口徹教授(健康科学部長)および工藤英明教授(社会福祉学科長)も同行され、栄養学科学生7名と大学院生2名(うち4名は「学生海外学習活動助成」を受けて渡航)2024年8月26日～31日にナムディンを訪れ、両国学生間の交流を行った様子を報告します。

1 日目: 開会式、学校見学、両校の紹介・自己紹介



開会式にて両校で挨拶が交わされました



自己紹介、青森県 & 大学紹介の内容について、各学生がベトナム出発前からパワーポイントを準備し練習して発表に臨みました！

2 日目:保健センター・小学校視察

午前中は Hung Vuong 小学校を訪問し、授業の様子を見学しました。続いて、近隣のコミュニティヘルスセンターの施設見学を行いました。午後は文化交流として学生同士でそれぞれの食文化を紹介し、日本の学生はアオザイ（ベトナムの伝統的な民族衣装）、ベトナムの学生は浴衣に挑戦しました。学生たちは英語で、又は翻訳アプリを活用して積極的にコミュニケーションを図っていました。



3 日目:学校における栄養教育に関するワークショップ

本年度実施してきた科研費による共同研究の成果を共有することを目的としたワークショップが開催されました。ナムディン看護大学からは Dr. Mai Thi Lan Anh、本学からは大学院生(奥山莉莎子)が中心となって研究報告を行い、活発なディスカッションが展開されました。



帰国後の学生のレポートでは、ベトナムの食事や文化を含め多くの学びを得られた大変有意義な経験となったことが伝わってきました。

